

# いっぷく会便り



<12月号> 平成28年12月1日 発行

NPO法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会 静岡県「いっぷく会」

会長 上杉 博美

「いっぷく会」のホームページ <http://ippukukai.com>

## 1 1月例会のご報告

11月例会は、11月13日（日） 静岡市番町市民活動センターで開催しました。

### ◆準備会 10時～

14名の参加をいただきました。

まず「いっぷく会便り 11月号」「会員アンケート用紙」「旅立ち82号」「12月忘年会案内」「12月交流会案内」を封筒に入れて、参加者への配布、欠席者・関係機関への郵送作業を行いました。

そして、いくつかの報告事項、打ち合わせをして、あとは昼食をとりながら楽しい歓談の時間を過ごしました。

場所も例会場と同じですので、弁当持参ですが、例会に少し早めに出かける感じで参加してみてください。親の居場所でもあります。是非、楽しい時間を共有しましょう。

### ◆例会 13時15分～16時50分 参加者33名（非会員1名含む）

#### ◇会長挨拶；報告事項；上杉会長欠席のため中谷が代理で行いました。

出席の御礼と報告事項として、①会員アンケートの記入について協力をお願いした。

②県ひきこもり支援センターの居場所が県内4ヵ所で開設されたことのお知らせ

③12月の忘年会の参加の呼びかけ ④1月22日に講演会を予定していることのご案内

⑤11月の個別相談会の案内 などを行いました。

#### ◇連続学習会 13時30分～15時40分

テーマ「親の幼児性 VS 子供の大人性」

講師 人間関係と心の相談舎 代表

菊池 恒 先生



- ・今日はワークショップ形式で、5～6名の6グループに分かれて意見交流しながら進めましょう。
- ・皆さんは、ご自身が親という立場ですが、自分の中にも幼児性の部分があるということ、それが何なのかということをもひも解いてゆくことです。答えは今すぐに出るものではありません。急がずにじっくりと行う必要があります。いずれはこういった世界を子どもと共有することが出来れば理想だと思います。「今まで気を遣ってきたのは子どもの方で、守られてきたのは親の方です。それを今度は逆にして下さい」という学習をしようということです。
- ・まず、「幼児性とは？」と「大人性とは？」についてグループで自由な話し合いをして発表しました。「自立できている」「自立できていない」「判断力がない」「判断できる」「人の目を気にする」「本音と建て前」など、皆さんの持っている「幼児」「大人（親）」のイメージを出し合いました。

#### ①根底にある「親子の逆転現象」

何が逆転しているのか？ 逆転現象とは何のことを指しているのか？ これも話し合いました。

「自立」ということでも、経済的、社会的には親の方が自立できているが、精神的には子どもの方が上か。「人の話をよく聞ける」「人の目を気にする」「本音と建て前を使い分ける」「判断力」など、ある部分においては子どもの方が何枚も上手であることが多いです。不登校・ひきこもりという現象の中で、皆さんも嫌というほど体験しているはずですよ。



連続学習会は「赤い羽根共同募金」の助成を受けて運営されています。

子どもにしてみれば、本音を言うと「親のプライドが傷つく」から、傷がつかないように親を気遣っている。

例えば、いじめられた時にも親に言えない。それは「親が心配する」「親が傷つくから」「親にとってショックだから」など。いじめられた事実より「親を守りたい」だから「自分が我慢する」。このように精神的には子どもが親を守っているのです。

もう一つ、物理的に考えると分かりやすいです。「高い所にいる人」「低い所にいる人」どっちが相手のことが分かりますか？ 下から見上げる人の方がよく見えるのです。立場的に考えたら、親の方から子どもの方はよく見えませんが、子どもの方からは親の実態というのがよく見えるのです。実は重要なのは親の方の幼児性です。今日はそこに焦点をあててゆくことになります。皆さんも子どもの頃、親を気遣う経験がありませんでしたか？ 気遣うということは親を守っていたのです。

「気遣う」というのは「緊張感」を生みます。「緊張感」が24時間、365日続きますと、普通ならとても耐えられません。ある日突然起きられなくなる、体の具合が悪くなる、学校に行けなくなるなどが出てきます。

だから、子どもが親に気遣いなく本音でぶつけても大丈夫、そんな打たれ強い親、動じない親になることが子どもにしてみれば「安心できる親」なのです。実はこれを阻んでいるのが、親の幼児性です。幼児性は、子どもから見るとしばしば「親が可哀想」に感じられるのです。

## ②親が自らの幼児性に気づく

「幼児性」のない人はいません。タイムマシーンがあるとしたら、どの年齢まで戻ってみたいかを話し合ってみました。いろいろと内容は違えど、その人なりの思いがありました。

親が子どもに「理解して欲しい」「察して欲しい」と思えることはすごく重要な意味をもちます。実はそれが「親の幼児性」です。本来「分かって欲しい」という感情、気持ちを抱くのは子どもの方です。子どもの方が親に「僕を理解して欲しい」のです。ところが今まで、子どもの方が親を理解していたのです。ここが逆転現象の最たるものです。これを本来のあるべき姿にしていかなければなりません。

子どもが親から理解されるような環境を作っていかなければなりません。子どもが安心するように整えてゆくのです。子どもが親に対して気遣わず、無防備になって安心できるかどうかです。そこに親が気づいてゆく番です。

## ③親の幼児性と子どもの幼児性の対決

子どもが親を気遣うのは子どもの習性でもあります。大切なのは、それを親が理解するかどうかです。「この子は親のことを気遣っているんだな」と、これからは気づいてください。とても重要です。子どもを「無条件に受け入れ」「話をよく聞く」などができると、子どもは子どもに戻ってゆきます。



子どもの中に「幼児性」が出てきます。「子どもの幼児性」と「親の幼児性」ぶつかると大変です。親は、お互いの違いを受け入れる、視点を増やす、柔軟性をもつなど、子どもと相対してゆくことが重要になってきます。親は親になり切れるか、子どもは子どもになり切れるか、です。子どもを「籠の鳥」にしない。自由に外に出してあげること、「子離れ」「親の自立」が必要です。さらにその際に大事なことは「切り分けること」です。相手は相手、自分は自分、親は親、子どもは子どもであって、ひとつと勘違いしてはならないのです。

#### ④世代間を連鎖するもの

人間にとって、良かれと思ってしたことが、思わしくないことが一番傷つきます。今まで親は、子どもにとって「良かれ」と思ってやってきたことが良くなかった、子どもからダメ出しをされる、それは親にとってとてもつらいことです。でももう一度振り返って、親の幼児性＝なぜ分かって欲しかったのか、分かってくれなかったらどういう気持ちになるのか、そしていろいろな考え方、いろいろな判断力、視点をもたなければなりません。親が成長して、子どもに追いついていていただきたいです。

おおよそこんな学習会をしました。ありがとうございました。

◇グループでの話し合い 15時50分～16時50分  
学習会のまま6つのグループで自由な話し合いをしました。

### 1月例会のお知らせ

日時：平成29年 1月8日（日） 13:15 ～ 17:00

会場：静岡市番町市民活動センター 2階 大会議室

<連続学習会テーマ>

#### 『親の本音と子どもとの向き合い』

(講師) 一般社団法人 SCS カウンセリング研究所 カウンセラー  
NPO 法人 KHJ 千葉県「なの花会」 理事長 藤江幹子 先生

参加費：今年度は、赤い羽根共同募金から助成金を戴きましたので、  
お一人ワンコイン！ 500円とさせていただきます。  
(初めて参加される方は体験日として無料で参加できます。)  
(当事者の方は、いつでも自由に、無料で参加できます。)

尚、当日10:00より例会準備会を同場所で行っています。会報の発送作業や家族同士の歓談などを行っています。家族、当事者の方などどなたでも参加できます。例会時とはひと味ちがった雰囲気、気楽なお話も出来ますよ。また、居場所として活用するのもひとつの方法です。是非、皆様のご参加をお待ちしています。

## 講演会のお知らせです

日時：平成29年1月22日（日）  
受付 13時より 講演会 13時30分～16時  
会場：静岡県男女共同参画センター「あざれあ」5F

演題 「ひきこもりと家族支援」

講師 静岡市ひきこもり地域支援センター センター長  
NPO法人 サンフォレスト 代表 三森 重則氏

今回は「平成28年度男女共同参画社会づくり研修応援事業」の1つで、助成金をいただき、静岡県と共催で開催するものです。  
広く 会員外の方にも参加を呼びかけております。  
参加料は無料です。当日直接会場にお出で下さい。

インフルエンザの流行も聞こえてきますが、皆様の元気な笑顔に久しぶりに会えることが出来ると思います。

最近、私は正直に行動することが大切であると思っていて、カッコつけるとか嘘をつく隠蔽する、自分を装うところで、結局は自分には嘘をつけませんから、普段から自分に正直に行動すれば、目先の私益にはあずかれないかもしれませんが、自分の気持ちに嘘はつけません。嫌だと感じているにもかかわらず、誰かを喜ばせるために嘘をつくことは、世間体のために仕方なく選んだものは良い結果を生みません。

何でもそうですが、「やりたくない」とか「それはちょっと」と思った時の感覚は大事にしたいものです。でも自分の与えられた責務から逃げようとするわけではないですが、自分の意思を明確に問われる時、これからは私は良心に従うことと、自分は自分なりに子供にも正直であるということで、どんな状況でもぶれないようにしようと思っています。気持ちに正直でありたいと思います。

会長コラム

初めてご参加の方、初回は体験として無料です。  
その後よろしければいつでも入会手続きができます。  
年会費は6000円で、出席した時には参加費のご負担をお願いします。  
その他、いっぷく会へのお問い合わせは事務局までお願いします。  
事務局 電話・FAX 054-245-0766 担当 中津川